

成蹊学園



vol. 72

2009 Winter

SEIKEI GAKUEN 広報



小学校 新本館

Contents

- 2 新年を迎えて
- 4 ISO14001を取得
- 5 成蹊音楽祭を開催
- 6 桃李の人々(本多俊之)
- 9 成蹊教育のいま(伊藤克容)
- 10 大学の近況
- 12 中学・高等学校の近況
- 14 小学校の近況
- 18 学園トピックス
- 19 2008年度の就職状況について
- 20 成蹊教育を知る

在学中から音楽活動に熱中
先生の言葉が励みに

サックス奏者・音楽プロデューサー
本多 俊之

インタビュー
桃李の人々



学園創立100周年記念事業が進行中

2009年新年のごあいさつ

ISO14001認証を取得／成蹊音楽祭開催

蹊



Series 成蹊教育を知る

今日から暑中休暇と、よその学校の生徒等は大悦びである。避暑海水浴温泉行と洒落て居るものもあろう。然し我等は左様な無益な贅沢な休暇はとらない。燃ゆるような三伏の日も、これに打勝って奮励勉強せんと覚悟をしたのだ。中村先生からこの事はよくよく言い聞かされた。同窓の友四十二名の心は石よりも堅く覚悟されたから、どうしてこの位な暑に負けるものか――



「夏の学校」、それは創立期より脈々と受け継がれてきた成蹊学園の伝統的な行事です。一九二(明治四十五)年に開校した成蹊実務学校には春・夏期休暇がなく、そのため通常休暇となる七月から九月においても日曜日を除き勉強、労働作業、見学会など、普段と変わらぬ学校の生活が行われていました。この夏の学校生活の記録は、学園創立者中村春二と成蹊実務学校生徒たちにより纏められ、後に「夏の学校」として出版されました。先にあげた文章は成蹊実務学校二年の生徒たちによつて記録されたものの一部で、これから始まる「夏の学校」を目前にした彼らの固い決意が綴られています。

夏の炎暑という天与の苦難を利用して、中村春二は特に子どもたちの心を修養させ、肉体を鍛錬し、本気になって奮闘努力する人間をつくらうと試みたのです。中村春二のこの思いに呼応するように、生徒たちは与えられた課題について着実勤勉に取り組みました。「労役(時間の後に)は風すずしき高台の緑蔭に踞して面白いかつ有益な先生方の物語を聞き、午後のおやつに味覚をも満足させることが出来たのである。ああ有益な暮らし方をしたものである。海水浴、温泉に行つたよりどれだけ為になつたかわからないと思つた」など、「夏の学校」に残された記録からは、炎暑での授業ながら充実した学校生活を送る生徒たちの様子を垣間見ることが出来ます。

心の修養、肉体の鍛錬を目指す - 夏の学校 -



中村春二の提唱した「夏期休暇廃止論」は、その是非をめぐる教育界において物議を醸しましたが、それに應ずることなく独自の教育信念を貫き、後に開設された成蹊中学校(旧制)、成蹊小学校、成蹊女学校、成蹊実業専門学校でも「夏の学校」を実施したのでした。

大正末期、中村春二が逝去し、成蹊高等学校(旧制)の開校を契機として学園では初となる夏期休暇が導入されました。しかし「夏の学校」は宿泊を伴う一部のプログラムを集約した形で継続されることとなり、その伝統の火種は守り通されたのです。

現在も成蹊小学校、成蹊中学校で実施されている「夏の学校」は、創立期の成蹊精神を根底に据えながら常に新しい要素を注入し、普段の学校生活では味わいにくい山や大自然に親しみながら、師弟、あるいは生徒児童同士の人間的交流を深める場となっています。

(成蹊学園史料館 露崎 幸)

(写真) 右: 夏期労働休憩中の講話
左: 「夏の学校」大正元年10月10日出版



成蹊学園広報

2009年1月10日 発行
学校法人 成蹊学園総務部広報課
東京都武蔵野市吉祥寺北町3-3-1 電話 (0422) 37-3517
URL <http://www.seikei.ac.jp> e-mail koho@jim.seikei.ac.jp



新年を迎えて

さらなる飛躍を目指す、

成蹊学園にご期待ください



理事長
岸 暁 (きし さとる)

【略歴】

1950 年	成蹊高等学校（旧制）卒業
1953 年	東京大学経済学部卒業 株式会社三菱銀行入行
1998 年	株式会社東京三菱銀行頭取
1999 年	成蹊学園理事
2000 年	株式会社東京三菱銀行取締役会長
2002 年	成蹊学園理事長
	株式会社東京三菱銀行相談役 （現・三菱東京 UFJ 銀行相談役）
2008 年	三菱東京 UFJ 銀行特別顧問

皆

さん、明けましておめでとうござ
います。ご家族おそろいで、明る
いお正月をお迎えのことと存じます。

新校舎が続々と誕生した二〇〇八年

昨年も学園にとり多事な年でありました。
目に見える変化で一番大きかったのは、何
といっても中学校の校舎新築に引き続いて、
小学校の校舎が完成し、児童が仮校舎から
新校舎に引っ越したことでしょう。成蹊高
等学校出身でフランスをはじめ世界的に活
躍しておられる設計家の坂茂先生と、三菱
地所設計との共同設計による、斬新でユ
ニークな新校舎が誕生しました。明るい教
室に加えて、各クラスが広々としたテラス
とワークスペースを備えており、学業は勿
論ですが、休み時間にも児童同士のふれ合
い、教員と児童のふれ合いに生かされる

ことが期待され、少人数教育に相応しい
「場」が整えられました。今後この恵まれ
た場を生かして、教育面での成果が現れる
と期待しております。

暮れには中学校に続いて高等学校の
ホームルーム棟が完成し、それぞれ収ま
るべきところに収まりました。中学・高
等学校間の行き来に配慮し、中高一貫教
育の理念にできるだけ近づけるよう配慮
しました。さらに高等学校職員室を従来
の学科毎に独立した構造から、全教科を
一室に集め、その中で学科毎に区切る構
造に改め、全体の意思疎通を格段に良く
しました。

これで一〇〇周年記念事業の建設関係
は、ただいま取りかかっている本館の
耐震補強と改修を残すのみとなりました。
このプロジェクトの一環として、全

体レイアウトを若干手直しし、成蹊会の
事務室が現在の史料館から、新本館三階
に移って参ります。学園と成蹊会とのコ
ミュニケーション強化に少しでも役立て
ば、と思っております。

ハードのみならず、ソフト面も改革

昨年末、情報図書館はグッドデザイン賞
を受賞し、さらに権威ある建築家協会賞を
受賞し、これも坂茂先生と三菱地所設計の
共同設計が高く評価されました。

このようにハードの面は日を追って進
展が見られますが、ソフトの面は一朝
一夕には進展しません。しかし一〇〇
周年記念事業の進展に伴い、小学校の
少人数教育、中学・高等学校の一貫教
育など教育内容も格段の充実が図られ
ているように感じられます。

大学では本年四月から「大学評議会」が
最高意思決定機関と学則上明確に位置づ
けられ、多数決原理も導入されることが
決まりました。従来学部単位でしか意思
統一が図られず、大学全体の意思決定を
図るには、時間も手間もかかっていたも
のが、すっきりと意思決定できるようにな
り、ガバナンスの問題に格段の進歩が
見られるようになったと思います。これ
で二〇〇五年以来三菱総合研究所のコン
サルテーションを受けながら取り組んで
きた「ガバナンス」の問題は大飛躍が遂げ
られることとなりました。

二〇一〇年から大学で「成蹊教養カリ
キュラム」がスタートすることとなりまし
た。これは四学部共通の、いわばリベラ
ルアーツでありまして、成蹊にもっとも
相応しいカリキュラムであり、将来本学
の特色ともなるものです。
また法科大学院は二〇〇八年度新司法

試験において十七名の合格者を出し、全
国の合格率三三％を上回る三八％となり、
特に未修者の合格率は全国私立大学中
トップとなりました。

学園はこれまでも環境問題に熱心に
取り組んでまいりましたが、昨年は
「ISO14001」の認証取得に向け
チャレンジし、めでたく認証取得ができ
ました。このほか学園では文化活動、ス
ポーツも活発で数々の実績を残しました。

「古典」から学ぶ、先人たちの知恵

成蹊の学生はこのようにすばらしい環
境に恵まれ、良い教員、良い友人に恵ま
れ、のびのびと成長していますが、この
ような恵まれた環境を生かしている
でしょうか。フォロワーの風の中ではのび
のびとその良さを生かしていますが、逆
境にあってもそれを跳ね返すだけの力を
蓄えているでしょうか。突出した学生は

際立った力を発揮するのですが、平均的
な学生はどうでしょうか。「成蹊学園の
卒業生は誰を見ても歯ごたえある若者ば
かりだ」というようになりたいものです。
そのためには私は皆さんに「古典」の勉強
に取り組んでもらいたいと思います。

古典の勉強などというと、迂遠のよう
に聞こえますが、「古典」には「知恵」が詰
まっています。こうした知恵を自分の引
き出しにしまうことによって人間の底深
さがぐんと増すように思うのです。どの
分野にもそれぞれ古典はあるでしょうし、
自分の分野の古典でなくとも、日本には
日本のすばらしい古典があります。学生
諸君は自分の恵まれた環境を天与のもの
と思わず、感謝して生かし、自分の力を
蓄えてください。本年も諸君の健闘を期
待します。



成蹊学園創立100周年記念事業

第2回成蹊音楽祭

2008年12月21日（日）、成蹊大学4号館ホールにて成蹊音楽祭が開催されました。
今年が第2回目となる本音楽祭のテーマは「宇（いえ）は大なり」とし、
小学生から卒業生まであらゆる世代の成蹊関係者が音楽を通じて一堂に会する、
まさに成蹊の"大家族主義"を感じさせるイベントとなりました。

第一部

第一部では、小学生の箏（こと）、プラスバンド、中学・高等学校生徒のウィンドオーケストラ（吹奏楽部）アンサンブル、ストリング・オーケストラの演奏、大学管弦楽団と成蹊OB・OGオーケストラの共演、そして卒業生の成蹊グリークラブ、保護者の成蹊コーラスの合唱が披露されました。

大学管弦楽団と成蹊OB・OGオーケストラは昨年度に引き続き、現在指揮者として国内外で目覚しい活躍をされている卒業生の高井優希さんが指揮をされ、息の合ったすばらしい演奏が場内に響き渡りました。

参加した団体・サークルが日頃の練習の成果を存分に発揮した、あたたかいアットホームなコンサートとなりました。

第二部

第二部では、中学校から大学まで成蹊学園に在籍し、日本を代表するサクソ奏者である本多俊之さんによる、スペシャル・セッションが行われました。作曲家としても著名な本多さんの多彩な演奏に、会場は大いに盛り上がりました。アンコールでは成蹊学園校歌が演奏され、美しいサクソの音色が観客を魅了しました。

本音楽祭は成蹊関係者だけでなく、武蔵野市在住・在勤・在学の方にも公開され、当日は約650名以上の方々にご来場いただきました。

ご来場いただいた皆さま、本当にありがとうございました。



●出演団体と演奏曲目

	出演団体	演奏曲目
第一部 成蹊音楽祭 13:00～16:00	■ 小学校 箏曲有志の会	六段の調 冬げしき
	■ 保護者 成蹊コーラス	ホームソングメドレー 《イギリス編》 ・アニーローリー ・グリーンズリーブス 〈イングランド民謡〉 ・ロンドンデリーの歌 〈アイルランド民謡〉 流浪の民
	■ OB 成蹊グリークラブ	若草薫 見上げてごらん夜の星を いい日旅立ち 千の風になって 故郷（ふるさと）
	■ 小学校 プラスバンド部	A 列車で行こう
	■ 中学・高等学校 ウィンドオーケストラ （中高吹奏楽部） アンサンブル	【中学】 サクソフォーン四重奏 「キャフェ・サンジェルマン」 金管八重奏 「イントラダ ～金管八重奏のための～」 【高等学校】 サクソフォーン三重奏 「パッション」 打楽器四重奏 「エオリアン・カルテット」
	休 憩（15分）	
第二部 特別演奏会 16:30～17:30	■ 中学・高等学校 ストリング・オーケストラ	Coral 森にわかる歌 Adagio for Strings and Organ Air
	■ 大学管弦楽団& 成蹊OB・OGオーケストラ	ボルカ 「雷鳴と電光」 「大学祝典序曲」 「ハンガリー舞曲」 第1番 成蹊学園校歌
休 憩（30分）		
サクソ奏者 本多俊之スペシャル・セッション		

成蹊学園は環境保全に真剣に取り組めます



ISO14001の認証を取得しました

成蹊学園は2008年11月27日、吉祥寺キャンパスを対象範囲として、
環境ISO（ISO14001）の認証を取得いたしました。
成蹊学園のような小学校から、大学・大学院を含む私立の総合学園が
環境ISOの認証取得をした例は少なく、教職員が一致協力した結果が実ったものです。

認証の概要

1. 範 囲：成蹊学園（小学校、中学・高等学校、大学）内における教育・研究及び関連する諸活動
2. 責 任 者：橋本竹夫 専務理事（環境管理責任者）
3. 審査登録機関：日本検査キューエイ（株）

成蹊学園の環境マネジメントシステム(EMS)

学園のEMSは、学園環境委員会を中心に推進しています。また、「小学校」「中学・高等学校」「大学（経済学部・文学部・法学部など）」「大学理工学部」「法人」の五つの区域に区分し、それぞれに「区域環境委員会」を設置しています。これは、各学校がそれぞれの特性を活かした環境保全にかかわる諸活動や教育・研究活動を進めるためです。

EMS は、「計画（Plan）、実行（Do）、確認（Check）、見直し（Action）」（PDCAサイクル）を繰り返すことによって、継続的な環境改善をめざすものです。今回のISO14001認証取得は、教職員が一致協力して取り組んできた活動の賜物であると思います。しかし、この取得がゴールではありません。今後も内部環境監査、外部審査機関による1年ごとの定期審査、3年ごとの更新審査に向けて、これからも一層の継続的改善に努めていかなければなりません。そのためには、学園に関わる多くの方々、児童・生徒・学生、保護者・卒業生の皆さま、取引会社の方々などに、ご理解とご協力をいただく必要があります。

成蹊学園は、小学校から大学院までの教育研究機関が緑豊かなワンキャンパスで一貫教育の伝統を継承してきた学園です。環境保全に関してもこうした特長を生かし、成蹊学園独自の環境保全対策の確立を目指していきます。今後とも皆さまのご理解、ご支援のほどよろしくお願いいたします。

（成蹊学園環境委員会）



12月17日認証授与式にて、橋本専務理事(左)、岸理事長(中央)、樋口日本検査キューエイ(株)社長(右)

成蹊学園環境方針

1. 地球環境の保全と維持を課題とする教育研究の充実を図り、環境問題に貢献する人材育成および環境分野の研究推進に努めます。
2. 環境に関連する教育研究の発信、武蔵野地域をはじめとする近隣地域とのコミュニケーション、あらゆる人々に対する教育研究の公開、社会貢献を図る諸活動を積極的に行います。
3. みどり豊かなキャンパスの充実と地球・地域環境に配慮したキャンパスづくりを推進し、省エネルギーと省資源、資源の再利用化と廃棄物の減量化を行い、環境負荷の低減と環境汚染の防止に努めます。
4. 学園内の教育研究をはじめとするすべての活動において、環境に関連する法的要求事項、および学園の認めるその他の要求事項を遵守します。

この環境方針は、文書化し、児童、生徒、学生、教職員および保護者、常駐する関連業者などの学園関係者に周知するとともに、理解と協力を求めながら実行、維持します。また、ホームページをととして一般に公開します。
成蹊学園は、この環境方針に基づき目的・目標を設定し、マネジメントレビューで定期的に見直し、環境マネジメントシステムの継続的な改善を図ります。

ISO14001とは？

環境負荷を低減し、持続可能な社会をつくるための国際規格で、国際標準化機構（International Organization for Standardization）が定める環境に関する規格（ISO14000シリーズ）のうち『環境マネジメントシステム（EMS）』の規格のことをいいます。ISO14001の規格は、組織が目指すべき環境方針を達成するために目的・目標を定め、その実現のための計画を構築し実施・運用していくことです。そのために構築されたマネジメントシステムが第三者によって審査され、規格に適合していると認証されることにより、認証・登録されます。

認証取得までの経緯

2006年	4月	学園環境委員会 設置
2007年	4月	環境方針策定
2008年	4月	環境マネジメントシステム運用開始 環境マニュアルなどの制定
	6月	内部環境監査実施
	7月	外部審査機関による1次審査
	9月	理事長によるマネジメントレビュー 外部審査機関による2次審査
	11月	ISO14001認証取得



インタビュー

卒業生ロングインタビュー

桃李の人々 vol.20

中学一年生の夏休みの宿題が音楽に熱中するきっかけに

—音楽には、かなり幼少の頃から親しんでいらつしたのですか。

本多 父が音楽評論家で、母もハワイアンバンドのベース・ギター担当という環境で育ちましたので、三歳からピアノを習っていました。もつとも、当時はピアノより戦闘機のプラモデルづくりの方に夢中で、稽古に通うのが苦痛で仕方がありませんでした。遅々として習熟せず、八年間習ったにも関わらず、「チェルニー一〇〇番」が終えられなかったほどのです。両親も、これはどうもピアノのセンスはなさそうだと諦めて、中学受験を目指すという名目もあって、小学五〜六年生頃にやめてしまいました。

その後、同級生との演奏だけでは飽き足らなくなり、高校一年の時に、青山学院大学のジャズ研究会のバンドに加入しました。パートは中学三年から始めたサックスです。そのメンバーで、ジャズクラブの老舗である新宿の「Shinjuku Pir Inn」のオーディションに合格し、ステージデビューを果たしました。

—やはり最初のステージは緊張しましたか。

本多 「Shinjuku Pir Inn」出演は、ジャズ演奏家にとって一つのステータスですから、感激でいっぱいでした。とても緊張しました。私たちは当然、前座クラスで、最初の時間帯にステージに立つのですが、演奏が終わった後も、日野皓正さんや渡辺貞夫さんなどが登場するまで居残っていました。時々そうした大御所に声をかけてもらうのも楽しみでした。

モダン・ジャズ・グループに所属しコンテストで優勝

—音楽活動を続けながら、大学にも進まれたんですね。

本多 私自身は、早めに音楽で生計を立てるつもりで、大学進学は考えていなかったのですが、父から強く勧められました。自由業の不安定さを体感している父でしたから、言葉には説得力がありました。「プロになるよりも、好きな音楽だけをやるにはアマチュアの方がいい

サックス奏者・音楽プロデューサー

本多 俊之

Toshiyuki Honda

昨年12月21日、創立100周年を記念して開催された「第2回成蹊音楽祭」ですばらしい演奏を披露してくださったのが、日本を代表するサックス奏者である本多俊之さん。中学校から大学まで成蹊学園で学ばれた本多さんに、音楽活動を中心として、在学中の思い出を語っていただきました。

面もある」と、懇々と説かれ、確かにそれもありだと思ったのです。

—大学では音楽サークルに所属されたのですか。

本多 入学してすぐに「モダン・ジャズ・グループ」に入りました。自分で言うのはおこがましい気もしますが、このサークルのレベルはきわめて高く、プロの演奏家も数多く輩出しています。

—サークル活動に関する思い出を聞かせてください。

本多 高田馬場のビッグボックスで開催されたジャズコンテストに出場したことが一番の思い出です。現在、フュージョンのトップグループとして活躍している「TSQUARE」なども参加していたのですが、それらの強豪を押し退けて、優勝しました。しかも、コンテスト前日は、まったく練習もせず、酒盛りをして、酔った勢いで腕立て伏せ競争に興じて、当日は腕がまったく上がらない状態での演奏でした（笑）。今振り返ると、そんな状態では



在学中から音楽活動に熱中 「プロを目指せ」と 先生からかけられた言葉が 大いに励みになりました

—成蹊学園で学ばれたのは、中学からですね。

本多 自宅が三鷹で通学に便利だったことと、両親が教育環境の良さを高く評価していたことから、成蹊中学校を勧められました。

—印象に残っている授業はありますか。

本多 中学一年の音楽の授業で、夏休み中に、皆の前で発表できるものを練習してきなさいという宿題が出されました。リーダーでも歌でもいい。独唱でもいいし、友人とグループを組んでもいいということでした。私は中学入学直後から、ロックを中心として自主的にレコードを聴くようになっており、流行していたミュージカル「ヘアー」の「アクエリアス」という曲が大好きでした。同じようにレコード鑑賞が趣味の同級生二人と仲良くなったので、その三人でパートを決めて、合奏の練習をしました。私のパートはフルートで、他の二人はピアノ、小太鼓です。挑戦したのはビートルズの「レット・イット・ビー」。二学期の授業中に皆の前で披露し

も優勝できるという鼻持ちならない自尊心を持っていたわけで、汗顔の至りですが、そうしたストイックさを嫌う気質もまた、成蹊人の特徴のような気がします。

大学在学中に
レコードデビューを果たす

—大学在学中の一九七八年に、キングレコードから、初のリーダーアルバム「パーシング・ウェイヴ」を発表されていますね。

本多 大学入学当初は、モダン・ジャズ・グループでアマチュアの道をまっとうしようと思っていました。けれども、プロと一緒に演奏する機会もあり、そうするとあまりにも気持ちがよい。やはりプロになりたいという意欲がふつと湧いていきました。

ちょうどその頃、クロスオーバー、フュージョンの世界的なムーブメントが巻き起ころうとしていました。レコード業界でも、潮流にあわせて、このジャンルで若手ミュージシャンを発掘して売り出そうという動きが活発化していました。その一人として、ジャズフェスティバルなどで実績を積んでいた私が登用されたわけです。デビュー曲を今聴いてみると、技術は稚拙で恥ずかしい面もありますが、若さにまかされた勢いは感じられます。今ではもう出せない音かもしれません。

—大学卒業後、多岐に渡る活躍をされていますが、意識的にそうされた面もあるのですか。

たところ、とても盛り上がり、それから音楽に熱中するようになりました。

—授業以外でも、発表する機会があったのですか。

本多 中学の学園祭で、前夜祭の時に、校庭に設けられたステージで、その頃台頭していたジャズロックの大ヒットナンバーであるハービー・マンの「メンフィス・アンダーグラウンド」を演奏しました。ドラムとエレキギターとエレキベースとフルートのバンド編成で、あまりの大音量に、生活指導主任の小野明先生が、近隣の方々に謝って歩かれたそうです（笑）。

演奏終了後、体育の岩崎洋治先生が「実によくうまいね。学校なんてやめて、プロになつたらいいんじゃないか」と、声をかけてくださったことを、今でも強烈に覚えています。中学生相手になかなかそこまで言える先生はいません（笑）。その時にプロになろうとまで決意したわけではありませんが、この言葉が励みになり、ずっと音楽を続けていこうという思いが生まれました。

本多 できるだけ活動の場を広げたいという思いは強かったですね。とくに映像音楽には、かなり早い時期から興味を持っていました。これは、七五三の時に最初に買ったもらったレコードが、ジョン・ウェイン主演、ヘンリー・マンシーニ音楽の映画「ハタリ！」だったことも影響していると思います。このレコードはすり切れるほど聴き込みました。その後、「スターウォーズ」の映像と音楽の共鳴のすばらしさに感動。クラシック音楽のスコアを購入して、自分なりに研究するようになりました。

一九八〇年に、日立ドラマスペシャル「歴史の涙」で、初めて音楽を担当。その際の音楽プロデューサーだった立川直樹さんの推薦で、「マルサの女」をはじめとする伊丹十三作品の音楽も担当しました。

「マルサの女」の時には、強烈な思い出があります。伊丹監督の要求は厳しかったのですが、何とかがんばって作曲し、いったんオーケラが出ました。ところが「これで十分だけど、せっかくだから、遊びのつもりでいいから、裏社会をテーマにして、もう一曲だけ作っておいで」と注文されました。試写を見た時の衝撃は忘れることができません。遊びで作ったその曲が、完全にメインになっていたからです（笑）。私もまだ若かったので「あれはいんじゃないですか。一生懸命作った前の曲はどこにいったんですか」と抗議しました。でも、軽くあしらわれてしまつて……。悲しい気持ちもありましたが、伊丹監督のこの柔軟性はすごい。自分も固定観念に縛られ



ゼミによる学びあい
～成蹊教育の知的伝統の継承と発展を目指して～



一橋大学商学部卒業。一橋大学大学院商学研究科博士後期課程単位取得。2001年成蹊大学助教授を経て、2007年より現職。著書「組織を活かす管理会計―組織モデルと業績管理会計との関係性―」生産性出版(2007年)により日本原価計算研究学会平成20年度学会賞受賞。成蹊大学体育会電球部顧問。趣味はバスケットボール観戦。尊敬する選手はアキーム・オラジュワンとチャールズ・オークリー。現時点で目標にしている選手は喜田俊太郎。

私が考える演習形式の最大の長所は、「アウトプット志向」。勉強のインプット側(知識の蓄積)だけではなく、自分たちでいろいろな作品(研究報告)を準備してもらい、アウトプット側(知識の活用方法)を集中的に訓練します。教科書に書いてある理論を理解して、記憶することはなによりも重要ですが、そのような訓練はほかの機会で行ってもらい

受け身ではなく「積極的な知性」を

演習形式(ゼミ)のクラスについて、私がどのような考え方のもとに実施しているかをご紹介させていただきます。学問研究や教育という活動自体に、世代間のスキル(技)の継承という面があります。私が講義のさまざまな場面でやろうとしていることの多くが、学生の時分にお世話になった、岡本清先生(一橋大学名誉教授、成蹊大学理工学部岡本秀輔准教授のご尊父)、廣本敏郎先生(一橋大学教授)をはじめとする、ゼミの指導教官の先生方からしていただいたものです。自分の成長過程ですごく効果のあったことに多少のアレンジを加え、受け持っている学生達に繰り返そうとしているということを今回、再確認しました。

世代を越えて受け継がれてゆくスキル



本多 俊之(ほんだ・としゆき)

1957年、東京都生まれ。成蹊中学・高等学校を経て、1981年、成蹊大学経済学部卒業。大学在学中の1978年に、初のリーダーアルバム「バーニング・ウェイヴ」を発表。大学卒業後、サックス奏者として、ジャズ/フュージョン作品を発表するとともに、映画、テレビ、CMなどの音楽を手がけ、作曲家としても活躍。とくに、伊丹十三監督の「マルサの女」「スーパーの女」「マルタイの女」などの「女シリーズ」で高い評価を得ている。そのほか、手塚治虫原作のアニメ映画「メトロポリス」の音楽も担当。1988年には、チック・コリアとの共演盤「ドリーム」も発表している。

ないようにしなければと思ったことを覚えて
います。

―今後の音楽活動の抱負をお聞かせく
ださい

本多 以前、先輩ミュージシャンに「作曲に力を入れると、プレイが下手になるからやめた方がいい」と言われたことがあります。その言葉への反発心もあって、作曲と演奏の両立に生涯こだわり続けていきたいと考えています。とくに映像とのコラボレーションは追求し続けたいですね。

―映画音楽に関してぜひ挑戦してみたいことはありますか。

本多 夢は「死刑台のエレベーター」で試みられた方法にチャレンジすることです。この映画の音楽は、マイルス・デイヴィスが、映像を見ながら、アドリブで演奏したものです。一度でいいから、そうした失敗が許されない緊張感の中で、映像にあわせてアドリブ演奏を行ってみたいですね。

相手の目線に立つ成蹊人の 気質はとても信頼できる

―音楽以外で、学生時代に印象に残っていることはありますか。

本多 興味の矛先がジャズにばかりいつていて、中学・高校の頃はテレビで流行っているものほとんど知らないような状況

況でした。もっと関心を広げないといけ
ないなと思ったのは、最近になってから
のことです(笑)。

大学時代も、音楽活動が多忙になり、
正直なところ、出席状況は芳しいもの
ではありませんでした。そんな私を「本
多君は遊んでいるわけではないから」と、
試験をレポートで代替してくださったり
など、温かく見守ってもらえて感謝して
います。

―所属されたゼミは何ですか。

本多 増地昭男先生の経営学のゼミです。
卒論は「レコード業界とその経営につい
て」というテーマで仕上げ、かなり高い
評価を受けました。実体験に基づくテー
マだったことが強みになったのだと思い
ます。

―現在の仕事に、成蹊学園で学ばれた
ことが生きていると感じられることはあ
りますか。

本多 最大の財産は人との出会いです
ね。成蹊学園の出身者は、温かい心を持っ
た人が多く、たとえば、プロの道に進も
うかどうか悩んでいた時に、ある先輩学
生が親身になって悩んでくれました。も
ちろん、一緒に考えたからといって、正
解が導き出されるわけでもありませんが、
自分と同じ目線に立ってくれる人はとて
も信頼できますし、心強いものです。そ
うした相手の目線に立つという成蹊人な
らではの姿勢は、家族に対しても、一緒



ゼミの様子

す。ゼミでは教科書に書いてある理論を憶えるだけ
ではありません。それを駆使して現実の問題を自分
の頭で考える、話を聞くだけではなく自分の意見を
相手に分かりやすく発表する、議論に効果的に参加
する。そのためのトレーニングを「これでもか」とい
うくらいしつこく要求し、実践します。理論構築・
応用能力、ディスカッショ
ン能力、プレゼンテーショ
ン能力は受け身の勉強だ
けでは得るのが難しいもの。
「積極的な知性」を身につ
けるためのクラスがゼミだ
と私は位置づけています。

自発的な取り組みで得られる達成感

ゼミの二つ目のよきは「自発性」です。「自分の関心
ある社会科学上の問題は何か」「その問題を解明する
には、どのような情報・知識を集めなければなら
ないか」。そのように自ら問いかける学生に、勉強の必要
性と楽しさを感じてもらいように環境を整備するの
が私に与えられた「アカデミックな遊園地の管理人」
としての役割です。したがって、日ごろ注意している
のは、「教え過ぎないこと」「学生の勉強モチベーショ
ンが高まるまで気長に待つこと」。自分の興味ある領
域について一生懸命勉強すれば、今まで知らなかつ
たことが分かるようになります。その達成感は同時
に快感でもあり、一度はまったら生涯抜け出せません。
継続的に勉強しているかいないかでは実力的にも雲
泥の差がつきます。研究発表の場で自分のプレゼン
が周囲から賞賛されたりしたら、脳内快樂物質であ
るドーパミンがでまくりです。ただし、強制されて
嫌々取り組む勉強は、拷問以外の何ものでもありま
せん。非効率で単なる時間の無駄です。このような意

に仕事をする仲間に対しても、きわめて
重要であり、私も大切に守っていきたく
と考えています。

自分に対してネガティブな人と 交流することが大切

―最後に、成蹊学園の後輩たちに向け
て、メッセージをお願いします。

本多 大学時代は、できるだけ自分とは
異なる意見の人と交流する機会を増やし
た方がいいと、私は思っています。その恰
好の場になるのがゼミです。意見を戦わ
すことによって、自分の考えが明確にな
るとともに、思考が深化していくのです。
当然のことながら、自分に対してネガティ
ブな相手につき合うと、嫌な思いをする
こともあるでしょう。けれども、自分にポ
ジティブな相手に限定して交流していた
のでは、井の中の蛙になってしまいます。

私自身、仕事を続けていく上で、「こ
んな音楽は、私が求めているものと違
う」と、否定的な反応にさらされた経験
が数多くあります。そんな場合に、音楽
観が違うのだからと、その意見から逃避
するのは簡単です。けれども、私は、絶
対に諦めずに、どこが要求と異なるのか、
しつこく議論するように心がけています。
その中から新しいアイデアが生まれるこ
とも少なくありません。それがまた、音
楽活動の大きな糧にもなっていると考え
ています。

(広報課)



ゼミ合宿にて



他大学のゼミとの交流

そして最後にあげなければならないのは、参加
者同士での「学びあい」ができること。私のクラス
では、「経営学および会計学」に関するさまざま
な問題をとりあげ、四〜五名のグループ・ワークを
実施し、パソコンを使ったプレゼンテーションを行
います。一ヶ月ごとに研究テーマを設定し、それに
したがって特色のある興味深い会社の動向や企業
経営に役立つさまざまなツールについて調査・分析
し、発表します。他のゼミ生との共同作業を課す
ので、ときには密接な人間関係が形成され、意見
交換することであるいろいろな刺激を受けることもし
ばしばです。場合によっては相手と自分の問題意
識のギャップや自分の能力の不足などを感じるか
もしれませんが、それらを通して自身をより深く
知ることができると思っています。お互いを刺激し合い、
勉強する意欲がふつふつと沸き起こってくれたら
よいなと思いつつ、作業する学生達の様子をい
つも眺めています。

大学の近況

理工学部研究プロジェクトが「私立大学戦略的研究基盤形成支援事業」に採択される

文部科学省が二〇〇八年度から公募した「私立大学戦略的研究基盤形成支援事業（研究拠点を形成する研究）」に本学の研究プロジェクトが採択されました。

この事業は「大学の経営戦略や研究戦略に基づき、各大学が特色を活かした研究を実施するため、その研究基盤の形成を支援する事業であり、もってわが国の科学技術の発展に資するもの」として文部科学省が今年度よりスタートさせたものです（文部科学省ホームページより）。

今回採択された本学理工学部の研究事業「人と環境に優しい統合化された社会システム研究基盤整備」（研究プロジェクト名「人と環境に優しい調和した統合化環境制御システムの構築——ユビキタス環境構築による環境問題ソリューション——」）は、その支援事業のなかでも「研究拠点を形成する研究」として採択され、二〇〇八、二〇〇九年度まで五年間にわたり助成金を得て実施されることになりました。

本プロジェクトは、理工学部物質生命理工学科山崎章弘教授を代表として、「複雑化した環境問題の解決を目指し、環境問題をシステムとして捉え、様々な学問分野の知識、技術を統合化したアプローチにより、グローバルベストな解決を図るとともに、人間の経済活動と調和した対策（人に優しい）の開発を計ることを目的」としています。本プロジェクトの実施にあたっては、十二号館地下室を改修し実験室にするなど、大学全体での取り組みを推進しています。

「環境DAY」制定

本学では、さらなる環境活動の推進を目指して、今後毎月十五日を「環境DAY」とし、学生・教職員の環境意識の啓発に努めます。

感染症に注意

鳥インフルエンザおよび新型インフルエンザなど、新しい感染症の流行の可能性が強く指摘されています。日頃から注意して、正しい知識の理解や厚生労働省や国立感染症研究所の発表する情報の確認を心がけてください。特に海外へ出かける際は、渡航先の安全情報（鳥インフルエンザの発生状況等）を外務省のホームページなどで確認ください。

なお、鳥インフルエンザおよび新型インフルエンザに関する情報は、健康支援センター・大学保健室のホームページからでも参照できます。

◆健康支援センター 電話〇四二二一三七一三五二八
http://www.seikei.ac.jp/university/hoken/index.html

四大学運動競技大会

第五十九回四大学運動競技大会（四大戦）本戦が十月二十四日から二十六日までの三日間、武蔵大学を会場校にして開催されました。四大戦は、さまざまな分野で交流のある成蹊大学、武蔵大学、成城大学、学習院大学がスポーツを通じて親睦を深める目的で毎年開催している伝統ある行事です。今回は、「煌」という言葉をスローガンに熱戦が繰り返されました。

本学は、健闘および総合順位第二位となり、惜しくも優勝は逃しましたが、正式種目ではバドミントン男子が九連覇を成し遂げ、一般種目ではバスケットボールとバレーボールが男女とも優勝す



四大戦

学生環境委員会「桃球」が環境標語を募集

成蹊学園では二〇〇六年四月より、幅広い領域にわたる環境問題への取り組みを進めるため、学園環境委員会を設置し、その活動の一環として同年、学生による環境活動推進団体「学生環境委員会」を発足させました。

学生環境委員会は愛称を「桃球」とし、今まで環境セミナーの実施や、ゴミ減量化運動などを行ってきました。

今回の「環境標語」の募集は成蹊学園に所属する小学生・中学生・高校生・大学生・大学院生・教職員を対象に行われたもので、五百件を超える応募作のなかから、学生環境委員会内で行われる一次選考を通過した八件が、二次選考へ進みました。二次選考は樺祭での「エコこち展」来場者による投票によって行われ、百四十三票を集めた次の標語が最優秀賞を受賞しました。上位に入賞した標語は今後、学園の環境標語として使用されます。

最優秀環境標語

「今だけの 便利が後で ゴミになる」



エコこち展の様子

「成蹊大学経済学部 創設四十周年のつどい」開催

本学経済学部は昭和四十三年に創設され、昨年、四十周年を迎えることができました。これを記念し、昨年十一月十五日、経済学部と経済

など大いに大会を盛り上げました。

また、十月三十一日には、四大戦で活躍し、優秀な成績を収めた団体を表彰する「成績優秀団体賞状授与式」が本館前にて行われ、秋晴れのもと、学長よりそれぞれの団体へ賞状が授与されました。

樺祭

第四十七回樺祭が、十一月二十二日、二十三日の両日、「彩—IRODORI」というテーマで催されました。

中庭に設営されたステージでは学生たちの迫力あるライブが繰り広げられ、大変な盛り上がりを見せました。また、模擬店や展示教室をまわってスタンプを集める、テトリ

スの要素を盛り込んだスタンブラリー「テトリズム」や、成蹊オリジナルのビンゴ大会「シューティングビンゴ」など樺祭本部による趣向をこらした企画も好評で、両日ともに多数の来場者で賑わいました。



二〇〇九年度入試にむけて

本学では、高校生の大学見学を積極的に受け入れています。十一月三十日現在、延べ四十九校、千二百八十名の高校生と保護者が、総合学習、進路指導の一環として来校しています。参加はおもに、二年生で、初めて大学を訪れる生徒も多く、いろいろなところに興味を示しています。

大学見学を通じて高校生活と大学生活の違いを

学部同窓会共催による「成蹊大学経済学部創設四十周年のつどい」が大学四号館ホールにて開催されました。

当日は小林まどか氏（フリーアナウンサー、平成十二年卒）司会により和やかに会が進められ、石坂信也氏（ゴルフダイジェスト・オンライン社長、平成二年卒）による記念講演の後、大学十号館十二階ホールで祝賀パーティーが開かれました。そのほか、学生の案内によるキャンパスツアーも行われ、参加した多くの教員や卒業生たちは、ひさかたぶりに訪れる吉祥寺キャンパスの様子を楽しみながら、旧交を温めました。



「成蹊大学法学部 創立四十周年記念行事」開催

法学部は昨年、創立四十周年を迎えました。樺祭期間中である十一月二十二日に行われた「成蹊大学法学部創立四十周年記念行事」には、多くの卒業生や教職員、また名誉教授の方も出席されました。大学八号館一階一〇一室で行われた講演会では、「法律家から見た中国と日本」というテーマで金光旭教授が、続いて宇野重昭本学名誉教授が「北東アジア学の創成と日中関係」というテーマで講演され、参加した教員・卒業生は熱心に耳を傾けました。



講演会終了後に、大学一〇号館十二階ホールで記念パーティーが開かれ、卒業生はゼミの指導教授を囲みながら成蹊大学の最近の様子について話が弾みました。

学位授与式のご案内

二〇〇九年度成蹊大学学位授与式を次のとおり執り行います。

●日時 三月十九日（木）十時より

●場所 大学体育館

―ご来場の皆さまへ―

式場が手狭なため、式場への入場は修了生、卒業生ご本人に限らせていただいております。このため、ご来校の際には、モニター放送により式の様子を別会場で、ご覧いただくことになります。予めご承知おきくださいますよう、お願い申し上げます。

モニター会場は、大学四号館ホール等です。（お車でのご来校は、ご遠慮願います）

中学・高等学校の近況

中学校体育祭

九月十七日に中学校体育祭を開催しました。当日は晴天に恵まれ、暑すぎる太陽と熱気のなか、大玉転がし、リレー、二人三脚、障害物競走、騎馬戦などの種目を行いました。特に女子の騎馬戦は大将戦にもつれ込み、男子顔負けの白熱した戦いでした。午後の応援合戦は一年生から三年生までが各クラス縦のつながりで一丸となり、事前練習の成果を発揮していました。応援歌も振り付けも生徒が考え、どのクラスも工夫されていて年々レベルが上がってきています。総合順位は一点差でA組が優勝、準優勝B組、三位はD組。応援合戦の順位は優勝A組、準優勝はD組とE組でした。



高等学校体育大会

高等学校体育大会は、九月九日、十日の二日間、天候に恵まれた中で開催しました。最初にそれぞれの競技に分かれる前に玉入れを行いました。一年生から二クラスごとに三十秒間行い、縦割



蹊祭（中高文化祭）

中高文化祭は九月二十七日、二十八日の二日間にわたって催されました。中高生は夏休み前から準備をし、クラスや団体によって夏休み中も活動してきました。今年は涼しい気候のなか、多くの来場者でどの会場も大盛況でした。今年も校舎の新築工事の関係で会場に制限がありましたが、限られたスペースを有効に使い、第一体育館ではイベントステージ上で高校生のクラスや運動部の女子がダンスを、第二体育館ではクラス展や有志展等を発表しました。中学H R棟では文化部の展示や学年展を発表しましたが、なかでも生徒が描いた龍の絵（天井画）は多くの来場者から称賛の声が上がっていました。大教室では中高のウインドオーケストラ、ストリングス、ダンス、演劇部などが日頃の成果を発揮しました。中学前庭では、三年生の学年展と運動部の創作ダンスやパフォーマンスを



行い、それぞれが特色あふれた催しを見せて文化祭の最後を飾っていました。第一体育館で行われた後夜祭（高等学校ではクラブや有志による発表が行われ多くの生徒が参加し、昨年、一昨年と中止になっていた文化祭の最後を飾る打ち上げ花火で盛り上がり幕を閉じました。



中学校遠足

中学校の遠足は秋晴れの好天のもと、十月三十日に予定通りに行われました。一年生は武蔵五日市の秋川橋河川公園バーベキューランドでクラスの中で班分けをし、カレーライスを作りました。各班が工夫を凝らしてカレー作りに挑戦し、サラダやデザートも作っていました。二年生は三年生での修学旅行を目標に、鎌倉で日本の文化に触れました。班行動を通じて、協力と責任を学び、参観のマナーを身に付けました。三年生は奥多摩の水川キャンプ場での野外料理「鍋フェア」がテーマでした。事前に手順計画書を担任にチェックしてもらい、きのこ鍋やキムチ鍋などに挑戦していました。

文化講演会

中高PTA教養部では例年、文化講演会を実施しておりますが、ここでは講演にあたってご尽力された米木さんのレポートを紹介します。

●音楽に包まれた秋の一日

PTA教養部 米木 真由美
十月四日秋の美しい空のもと、大教室において中高PTA教養部主催文化講演会「クインテットチャッピー・サロンコンサート」が行われました。クインテットチャッピーは、「クラシック音楽をより多くの方に身近なものとしてとらえていただき、ますます興味を持っていただくこと」を目指しプロアーティストを中心に、クラシック界の最先端で活躍するプレイヤーで構成された「チャッピーフィルハーモニー」の中心的メンバーの方たちです。クラシック音楽というといふ敷居が高く感じしてしまうこともあると思いますが、彼らはホールでの演奏会の他に、学校や病院、各種団体の依頼に応え、身近なスタイルで一流の音楽を届け続けている音楽家たちです。



正直、主催した私たちも若い彼らの音楽にだけの方たちが足を運んでくださるかという不安もありましたが、当日は保護者の方々をはじめ、中・高校生の皆さん、成蹊小学校の制服のお子さんご家族、サロンコンサートの開催を知った近隣の方々と本当に大勢の方たちにご来場いただき、大教室は満席に近い状況になりました。二台のヴァイオリンとチェ

ロ、ピアノによる「アイネ・クライネ・ナハトムジーク」「愛の挨拶」は、室内楽の醍醐味である繊細なアンサンブルがすばらしく、弦の美しい調べを存分に味わうことができました。クラリネットを加えた「トルコ行進曲」や「カノン」そしてチャッピーの十八番である「情熱大陸」やチャック・コリアの「スペイン」は、力強いヴァイオリンと彼ら独自の音楽性を放ち、クラシックの新しい楽しみ方を知るとともに音楽は奏者も作り手であるということ改めて思い知らされる演奏でした。また、楽しい趣向と解説で小さなお客さまにも楽しんでいただけた「動物の謝肉祭」、さまざまな動物たちの登場の中、チェロの奏でる「白鳥」はやはり最も優美で品格があり、静寂の中その弦の響きが深く染み渡りました。その会場を次は「TSUNAMI」や「ディズニードレー」など馴染み深いポップスで盛り上げます。まさに、演奏者の情熱と音楽の美しさ、楽しさに会場が包まれたすばらしいひとときでした。

成蹊中高は、ストリングスオーケストラ、ウインドオーケストラという二つのオーケストラを持ち非常に熱心な活動をされていますが、その精神はかつて昭和三十年から平成三年まで成蹊小学校に存在した器楽クラブの教育理念から引き継がれているものではないでしょうか。「子どもたちに一生にわたる音楽生活を」という理念のもと、ヴァイオリンをはじめさまざまな楽器の指導、そして公演の場が与えられ大オーケストラを構成されていたと聞きます。音楽を愛し、音

楽の中で育つことが成蹊の一貫教育の一つであるならば、今回の演奏会もきっと成蹊の教育に沿ったものであったことと確信しています。演奏会終了後、楽器を持った生徒たちがクインテットチャッピーのメンバーを囲み奏法など質問している姿、それに対し熱心にアドバイスいただいている姿はとても微笑ましく心温まる光景でしたし、会場片付けの際には生徒たちが率先してお手伝いくださり、生徒の皆さんにもこの演奏会を楽しんでいただいたことを大変嬉しく感じました。



また、観客の皆さんからもすばらしかったという感想をたくさん頂戴し、後日チャッピーからは感謝のお気持ちと、また機会があればぜひ何かさせていただきたい、という言葉をいただきました。行き届かない面もあったことと思いますが、主催者一同心を込めて準備させていただき、本当に良かったです。

この講演会に際しては、ご出演いただいたクインテットチャッピーはじめさまざまな方のお力添えをいただきました。ご来場いただきました皆さま、ご尽力いただいたすべての方に心よりお礼申し上げます。ありがとうございました。

運動部・文化部の活躍

●中学男子硬式庭球部

（団体）
東京都中学校新人テニス選手権大会 ベスト8
関東中学校新人テニス選手権大会 ベスト4

（個人）
東京都中学校新人テニス選手権大会
シングルス 金澤純 ベスト16
ダブルス 太田航平・永野道隆 ベスト16

●中学女子硬式庭球部

（団体）
東京都中学校新人テニス選手権大会 第3位
関東中学校新人テニス選手権大会 ベスト4

（個人）
東京都中学校新人テニス選手権大会
シングルス 吉岡見子 ベスト8
ダブルス 吉岡見子・田川理沙 ベスト16
有馬千香子・高橋侑里 ベスト16

●高校陸上競技部

東京都選抜大会 1年生大会 7月12日・13日
（女子）
100m 鈴木伶奈 12秒95（準決勝進出）
1500m 都甲真利 5分18秒
（男子）
走高跳 鈴木伶 1m70cm
田中嘉 1m75cm（決勝進出）
砲丸投 内海健人 5m18cm

東京都新人陸上 9月28日・10月4日・5日
（男子）
100m 岩倉彬 11秒48
走高跳 田中嘉 1m75cm（決勝進出）
鈴木伶 1m70cm
砲丸投 加藤慶 8m93cm
円盤投 加藤慶 23m86cm
（女子）
100m 7位 鈴木伶奈 12秒71（決勝進出）
200m 4位 鈴木伶奈 25秒51（決勝進出）
1500m 都甲真利 5分13秒

東京都都高校駅伝大会 11月3日
（男子）
61位／100
（女子）
23位／70

●中学吹奏楽部

第48回東京都中学校吹奏楽コンクール大会
B組 金賞
（東京都中学校吹奏楽連盟主催）

小学校の近況

子どもたちの文化祭

「つくり出そう ぼくらの あついメッセージ」
二学期の文化祭は、成蹊小学校の子どもたちが日頃の学習の成果を発表する重要な公開行事です。今年も、十月十一日と十二日の二日間、二千九百名の来校をいただき、劇や展示など子どもたちの「あついメッセージ」を楽しんでいただきました。

標題の文化祭スローガンは、高学年の学校桃の会、代表委員会の子どもたちが、各学級から持ち寄った案を討議して一つのスローガンに絞り込んだものです。今年は、三年生の学級から出されたスローガンが選ばれました。高学年の子どもたちが下級生の活動にもしっかりと心配りをして選定してくれた結果だと嬉しく思っています。

学年展示発表は新本館で

昨年までは小学校食堂を学年展示会場としていましたが、今年は新校舎で展示発表を行うことができました。これまで食堂・理科館・松林館に分散していた展示発表でしたが、今年から新本館と隣接した松林館とに集約され、参観に便利な会場づくりを行うことができました。

前号でも紹介した新本館の一階にある「けやきホール」は、五年生の展示スペースとなりました。また一年生と三年生の展示は、教室前に広がるワークスペースを利用して会場とすることができました。さらに理科室では、可動式実験台を効果的に使用した展示を工夫するなど、新本館の機能を十分に生かした展示ができたと思います。今年のプログラムから展示の概要を紹介します。

●一年展〈新本館・一年教室前のワークスペース〉 「はじめのいっぽ」

一年生は新入学の狭い仮設校舎での生活からいきなり新本館という新しい環境の中での生活

す。一学期に作品を考え、夏休みにじっくりと製作しました。どの作品もさまざまな工夫があり、役に立つ便利な作品になっています。子どもたちの努力の成果を楽しみながらゆっくりご覧下さい。



●美術展〈松林館・低高アトリエ、一・三学年展〉
一年生↓静物画、二年生↓友だちの絵、三年生↓自画像、四年生↓アルミ浮彫刻、五年生↓ダンボール照明、六年生↓寄木細工、美術部↓陶芸(皿)と、もりだくさんの絵や彫刻、工芸作品が展示してあります。ゆっくりご覧下さい。

●家庭科部展〈松林館・こみち実習室〉

家庭科部のメンバーは六人です。ささやかではありますが、今までに作ってきた作品を展示しますのでどうかご覧ください。作品を見て来年の四年生がたくさん家庭科部を希望してくれることを祈ります。

学年舞台発表は体育館アリーナで

今年から全学年が四学級編成となり、舞台発表を担当する偶数学年は、十二学級がそれぞれに学級劇を発表しました。二日間にわたって学年ごとに舞台発表を行いました。どの学年学級も、少人数学級の良さを生かした「子どもたちの顔が見える」発表となりました。また、ブラスパンド部と太鼓部も日頃のクラブ学習での練習の成果を披露しました。

右下に文化祭プログラムからそれぞれの演目を紹介しましたが、紙面の関係で原作者などについては割愛させていただきました。

が始まりました。展示発表のテーマは、広い意味で「一年生にとつての環境」問題です。仮設校舎、新校舎も、畑やトンネル山、箱根寮も、子どもたちにとっては全部新しい環境でした。先生方や上級生たちは「人的環境」、記念やこみちの時間、夏の学校は「文化的環境」ということができます。一年生たちが、「成蹊」という新環境とどう出会い、日々自己をふくらましていくのか、まさにその一歩一歩をご覧ください。



●三年展〈新本館・三年教室前のワークスペース〉 「われらストップ！温暖化」

「近頃、天気はどうもおかしい…」そう感じることはありませんか。こんな「おかしい天気」は今、世界中で起こっているのです。それは「地球温暖化」と関係しているといえます。でも、「温暖化」って何でしょう。地球の気温が上がるとどんなことが起こってしまうのでしょうか。三年生は、今回、「温暖化」を手がかりとして、地球のため、環境のためにできることを身近な問題から考えてみました。牛乳パックや木の実を利用した作品づくりも行いました。



●五年展〈新本館・けやきホール〉 「楽しく遊ぼう…つなげて・ひろげて・くらべて」 九九。算数の九九です。何で「九九」って言う

●二年生舞台発表の会

東組「おれたちは野菜だ！」
西組「三びきのやぎのがらがらどん」
南組「だんすダンス DANCE FINAL」
北組「どろぼうがっこう」

●四年生舞台発表の会

東組「どんぐりとやまねこ」
西組「注文の多い料理店」
南組「王様の命令」
北組「ヒュードロンお化け学校」
六年生舞台発表の会
東組「金のおの 銀のおの」
西組「六西オンリーピック2008」
南組「歴史アドベンチャー」六年南組過去へタイムスリップ」

●クラブ学習発表 ブラスパンド部

「キセキ、虹崖の上のポニョ、ONE LOVE」他太鼓部
「ぶち合わせ太鼓、秩父屋台囃子、初午太鼓」



二年生



四年生



六年生



ブラスパンド部

か知っていますか。いつごろからとなえられるようになったのか、知っていますか。九九は、今から千年以上前からあるのです。また、日本以外の国では、どうなっているのでしょうか。こんなことも、調べてみると面白い。まとめてみるとびっくりする。実験するとすばらしい。お楽しみに！



●こみち科展〈松林館・こみち実習室〉

こみち科展では、五、六年生がこみちの授業で製作した作品を展示します。五年生は、初めて持った針と糸を使ってマスコットを作りました。六年生は、さらにミシンやアイロンを使いこなし、エコバックを作りました。他にも、学習で取り組んだ作品を展示します。日頃の学習の成果をゆっくりとご覧ください。



●理科展〈新本館・理科AB教室〉

理科展では毎年恒例の「発明くふう作品展」を行います。今年は新しくなった理科室で四年生、六年生の全作品を展示します。A教室に六年生、B教室に四年生です。(三年生、五年生の作品は学年展の中で展示します)



最後に、二日間二千九百名の参観者に対する受付業務を積極的に引き受け、行き届いた対応をしてくださったPTA総務部の皆さまに、心から感謝申し上げます。



太鼓部

東京都児童生徒発明くふう展

今年も文化祭で展示発表した「発明くふう作品」を第五十二回東京都児童生徒発明くふう展に出品し、四年連続となる「学校賞」をはじめとした多くの賞をいただきました。

今年の受賞は左記のとおりです。

〈特別賞〉毎日新聞社賞
六年女子

〈優秀賞〉

三年男子二名・五年女子二名・六年男子・六年女子二名(入選)

三年男子・四年男子・五年男子・六年男子・六年女子なお、「特別賞」・「優秀賞」そして「学校賞」の表彰式が十二月十日に都議会議事堂「都民ホール」で行われました。特別賞作品は「第六十七回全日本学生児童発明くふう展」に推薦出展されます。

安全対策「地域安全マップづくり」

PTA安全対策委員会では、「子どもたちが、自分の判断で自分を守るように！」を目標として、子どもたちと保護者に向けて「地域安全マップづくり」を呼びかけました。十一月の入試休み期間後に、各学級には多くのマップが提出されました。

これらは、十一月二十六日の通学方面別集会で発表され、地域ごとの安全対策を考える資料となりました。集会には、早朝にも関わらず二百五十名を超える保護者の参加があり、学校と家庭の連携の大切さを再確認しました。

成蹊学園創立二〇〇周年記念事業
募金推進の集いを開催しました

十二月二十日(土) 於 大学八号館および大学十号館十二階ホール



成蹊学園創立二〇〇周年記念事業募金局では、二〇〇二年十月のスタート以来、同窓生・在校生・父母・教職員および学園関係者からなる発起人・募金委員・募金推進委員の方々のご協力のもと、募金活動を続けて参りました。

このたび、各委員の皆さまにご参集いただき「成蹊学園創立一〇〇周年記念事業募金推進の集い」を開催しました。この集いは、日頃の委員の方々のご尽力に對して御礼を申し上げ、募金活動の状況についてご報告申し上げるとともに、活発な意見交換や交流を通して

じて今後の推進活動についてご理解とご支援をいただく機会として、恒例により開催したもので、当日は八十二名の方々にご出席をいただきました。

第一部では、日本政府代表の有馬龍夫氏より「アメリカ大統領選挙等の追憶」と題したご講演をいただきました。この講演は、委員のほか一般にも公開され、アメリカ大統領選挙というタイムリーな話題を中心に、歴代アメリカ大統領の人物を表すエピソードや、大統領の資質として重視されること、新しく大統領に選ばれたオバマ氏がハーバード・ロースクール時代に果たしていた役割の意味等々、有馬氏ならではの国際舞台での豊富なご経験に基づいた貴重なお話を伺う機会となりました。

講演の後、募金委員会会長の岸曉理事長より、これまでのご支援に對する御礼と、七年目を迎えた募金活動について、目標達成に向けて今後も活動を一層推進していくことはもちろん、この機会を通じて学園と同窓生、保護者など学園を支えてくださる方々との新しい関係を構築していきたいとのこと

挨拶がありました。引き続き、社団法人成蹊会会長の相川一成様より、成蹊会の募金活動への取り組みについて心強いご挨拶をいただきました。

第二部の懇親交流会では、会に先立ち募金実行委員会委員長の橋本竹夫専務理事より、創立一〇〇周年記念事業および募金事業の進捗状況などの報告があり、続いて募金委員会副委員長の栗田恵輔成蹊大学長、谷正紀中学・高等学校長、金納善明小学校長より、皆さまの日頃のご尽力に對する御礼と各学校における一〇〇周年記念事業の現況についての報告がありました。

参加者の皆さまは、和やかな雰囲気の中、歓談を楽しまれ、相互に交流を深められていました。最後は校歌を斉唱し、盛況のうちに閉会いたしました。

成蹊学園では、皆さまよりお寄せいただきました貴重なご意見を活かしながら、目標達成を目指して募金活動にまい進してまいりたいと存じます。引き続き皆さまのご支援・ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

成蹊学園創立一〇〇周年記念事業
成蹊小学校新校舎（本館）
見学会のお知らせ

成蹊からお伝えしたいこと

TOPICS

二〇〇八年七月に新校舎（本館）が竣工し、当初の計画通り二学期の九月から使用開始となりました。この建物は、成蹊学園創立一〇〇周年記念事業の一環として建築したもので、児童をはじめとして関係者一同新校舎の完成を喜んでおります。これも皆さまのご協力の賜物と心から感謝申し上げます。

完成した地上三階・延べ床面積五二〇〇㎡の校舎は、小学校教育員も基本構想作成の段階から加わることで、「あかるい・あんしん・やさしい」を設計のコンセプトに、希望通りの使いやすさや安全性を考えた建物となりました。また、ビオトープを設置するなど子どもたちの楽しみの場が増えて、建築前の様子とは様変わりしました。

つきましては、在校生・卒業生・保護者の方々と教職員の皆さまを対象に、左記の要領で小学校新校舎の見学会を開催したいと存じます。皆さまお誘いあわせの上、新しい成蹊小学校をご覧くださいませようご案内申し上げます。

成蹊小学校新校舎（本館）見学会のお知らせ

開催日時

2月28日（土）14:00～16:00

※事前申し込みは必要ございません。

受付場所

中央館正面入口

お問い合わせ先

小学校事務室

T E L:0422 (37) 3839

E-Mail : shougaku@jim.seikei.ac.jp



成蹊小学校 本館

二〇〇八年度の
就職状況について

二〇〇八年度は大学新卒者の有効求人倍率が昨年度と同じ二・二四倍を維持し、企業の採用意欲も上半期までは積極的な状況でした。しかしアメリカのサブプライムローン問題に端を発した経済情勢の不透明感から採用状況にも少しずつ影響が出ており、企業側も採用に慎重な姿勢をみせています。

このような採用状況のなかでも本学は堅実な結果を出しており、就職希望者千六百四十八名（内工学研究科六十三名）の十一月一日現在の内定率は、昨年を若干上回る八三・九％となっています。

内定状況を見てみますと、文系では今年度も金融業界への内定者の割合が、男女とも高くなっております。その一方で、男子では、キリンビール、国分、凸版印刷、電通、毎日新聞社など、業界を代表する企業にも内定しています。女子では、大手メーカーへの総合職の内定も目立ち、本田技研工業、日産自動車、シャープ、住友スリーエム、東芝などに内定しています。

また、理工学部・工学研究科の学生も、キャノン、東芝、トヨタ自動車、日立製作所、本田技研工業、三菱重工業、三菱電機などの大手メーカーをはじめ、数多くの優良企業に内定しており、堅実に実績を積み重ねています。

主な内定先企業は下表のとおりです。
（キャリア支援センター）

おもな内定企業一覧（2008年11月1日現在）

企業名	企業計 (内女子)		内訳	
			文系学部 (内女子)	理工学部 (大学院含む 内女子)
みずほ銀行	47	(36)	47	(36)
みずほ信託銀行	24	(22)	23	(21)
東京海上日動火災保険	21	(21)	21	(21)
三井住友海上火災保険	20	(14)	19	(14)
三菱東京UFJ銀行	19	(14)	18	(13)
三井住友銀行	17	(12)	17	(12)
ダイワボウ情報システム	13	(10)	13	(10)
日本興亜損害保険	13	(9)	13	(9)
損害保険ジャパン	12	(8)	12	(8)
三菱電機ビルテクノサービス	12	(4)	8	(4)
三菱UFJ信託銀行	12	(9)	12	(9)
八千代銀行	11	(6)	11	(6)
あいおい損害保険	9	(7)	9	(7)
住友信託銀行	9	(9)	9	(9)
中央三井信託銀行	9	(8)	9	(8)
日本生命保険	9	(9)	9	(9)
本田技研工業	9	(1)	1	(1)
アメリカンファミリー	7	(5)	7	(5)
キャノンマーケティングジャパン	7	(3)	3	(2)
千葉銀行	7	(5)	7	(5)
帝国データバンク	7	(4)	7	(4)
オリックス	6	(6)	6	(6)
JR東日本	6	(1)	3	(1)
東京都民銀行	6	(2)	6	(2)
凸版印刷	6		4	2
三菱商事マシナリ	6	(6)	6	(6)
オリンパス	5	(1)	2	3
JA三井リース	5	(3)	5	(3)
第一生命情報システム	5	(3)	1	4
東京海上日動システムズ	5	(2)	2	(1)
東芝	5	(1)	1	(1)
みずほ情報総研	5	(2)	3	(2)
三菱電機	5			5
旭化成ホームズ	4	(1)	4	(1)
エトワール海渡	4	(4)	4	(4)
KDDI	4	(2)	1	3
キャノン	4	(1)		4
ジェーシービー	4	(2)	4	(2)
スズキ	4		1	3
住商機電貿易	4	(2)	4	(2)
住商情報システム	4	(2)	3	(2)
住商鉄鋼販売	4	(2)	4	(2)
長瀬産業	4	(4)	4	(4)
三井生命保険	4	(4)	4	(4)
三井不動産販売	4	(3)	4	(3)

企業名	企業計 (内女子)		内訳	
			文系学部 (内女子)	理工学部 (大学院含む 内女子)
守谷商会	4	(2)	4	(2)
明治安田生命保険	4	(4)	4	(4)
横河電機	4	(1)		4
リコー	4	(1)	2	(1)
伊勢丹	3	(1)	3	(1)
NEC	3		3	
NECソフト	3	(1)		3
商工組合中央金庫	3	(1)	3	(1)
全日本空輸	3	(3)	3	(3)
大同生命保険	3	(2)	3	(2)
大日本印刷	3		2	1
日産自動車	3	(2)	2	(2)
日本通運	3		3	
日本通運【航空事業部】	3	(2)	3	(2)
日立製作所	3			3
みずほフィナンシャルグループ	3	(3)		3
三井住友海上システムズ	3	(2)	3	(2)
三井住友ファイナンス&リース	3	(2)	3	(2)
三井不動産レジデンシャル	3	(2)	3	(2)
三菱総研DCS	3	(2)	2	(1)
鹿島建設	2	(2)	2	(2)
コーセー	2	(1)	2	(1)
JTB首都圏	2	(2)	2	(2)
清水建設	2			2
城南信用金庫	2	(1)	2	(1)
積水ハウス	2	(2)	1	(1)
第一生命保険	2	(2)	2	(2)
大和証券	2	(2)	2	(2)
東京海上日動あんしん生命保険	2	(2)	2	(2)
東京電力	2	(1)	2	(1)
TOTO	2	(2)	2	(2)
トーハン	2	(1)	2	(1)
ニコン	2			2
日本紙ハルボ商事	2		2	
日本通運【海運事業部】	2	(1)	2	(1)
日本マスタートラスト信託銀行	2	(2)	2	(2)
野村證券	2	(2)	2	(2)
八十二銀行	2	(1)	2	(1)
富士重工業	2			2
三菱マテリアル	2		1	1
明治製菓	2		2	
横浜銀行	2	(1)	2	(1)
横浜市役所	2		2	
アステラス製薬	1	(1)	1	(1)
出光興産	1			1

企業名	企業計 (内女子)		内訳	
			文系学部 (内女子)	理工学部 (大学院含む 内女子)
NHK（日本放送協会）	1	(1)	1	(1)
NTT東日本	1			1
沖電気工業	1	(1)	1	(1)
カシオ計算機	1			1
神奈川県庁	1		1	
キリンビール	1		1	
警視庁	1	(1)	1	(1)
公立大学法人首都大学東京	1			1
国分	1		1	
国家公務員	1		1	
コニカミノルタホールディングス	1	(1)	1	(1)
埼玉県警察本部	1			1
JR東海	1	(1)	1	(1)
シャープ	1	(1)	1	(1)
首都高速道路	1			1
主婦の友社	1	(1)	1	(1)
新日本製鐵	1	(1)	1	(1)
住友スリーエム	1	(1)	1	(1)
ソニー	1			1
大成建設	1		1	
高島屋	1		1	
TDK	1	(1)		1
電通	1		1	
東京ガス	1	(1)	1	(1)
東京急行電鉄	1		1	
東京消防庁	1		1	
東京地下鉄	1		1	
東京都教育委員会	1	(1)	1	(1)
東京特別区	1	(1)	1	(1)
東京都庁	1		1	
トヨタ自動車	1			1
日本規格協会	1	(1)		1
日本銀行	1	(1)	1	(1)
日本政策金融公庫【国際協力銀行】	1	(1)	1	(1)
日本中央競馬会	1	(1)	1	(1)
日本トラスティ・サービス信託銀行	1		1	
農林中央金庫	1	(1)	1	(1)
博報堂	1		1	
富士通	1			1
ブリヂストン	1	(1)	1	(1)
毎日新聞社	1		1	
丸紅	1	(1)	1	(1)
三菱地所設計	1	(1)		1
三菱重工業	1			1